

〔百千鳥_下〕孔雀 餌がいきび、米菜をきざみ、蕎麥、粟、水を入

大きな毛色世に知る所なればこれを略す、大庭籠にて飼ふべし青きむし一日に四五疋ヅ、又は小むしならば十ヲ計も飼ふべしいなご類の青虫なり、けら蚯蚓の類はよろしからず、口にはねばり出てあし、兎角子は秋にいたり、寒氣にうつるところにて落たがるもの也、八九月の頃長雨などのせつ、心をつけべし、玉子は二十八日、または廿九日にてひらく、三歳にて雄は漸く尾に玉出る、それも古鳥のやうに多は玉なし、としを経てだんく、玉數ふへて、見事になるものなり、子は開りいするところ、兩羽のびて外のとりの九日十日立たるていなり、玉子のうちにて、風きりのびて開るなり、

〔飼鳥必用_中〕孔雀

紅毛渡古來より日本の庭籠にて生立能く、産巢まれにて、親鳥宜敷は玉子拾ヲ餘りも落、皆ともかへり候故、世にのぞみなき程にも生立候得ば、能親鳥を持候人は、生立方は不功者、又功ある人は親鳥を不持、春より夏迄は雛も諸所に相見得候得共、寒を越シ、翌春迄に過半相落、又は足に難有り、玉子庭鳥に暖させ候得ば、日數三十日にてかへる也、其節生方すり餌にて五分餌、棒ふり虫を入けら虫にて飼立水を不用、青菜刻み飼候て、雙の羽を切り、泊木を下タニ付置、貳歳迄は乳母鳥を不放棄事、第一の覺也、總而遊び所廣く相拵へ、折角日當宜敷致吟味、高キ泊り木へ上り下り候得者、足の節等痛段々はこび悪敷也、ついに落鳥に相成事多、依之寒中は庭籠之内へ兼を張り、暖なる方に取仕立、雛の内は下地江、糲糠又は切わら等を敷候事、都而不宜、足かわきて指ひまがり候ゆへ、土地をやわらかに取拵へ、差置候事宜敷、總體孔雀は唐方の方、紅毛出と同様にて、二通り有之、紅毛巢生は足長く身なり長手にて、ぶとふに見へず、唐方は鳥の足少シ短く小形にて、ぶとふに見へる不、宜雛の内貳才迄は水を吞せる事無用なり、初而水相用候日は四五口も吞せ